

実践例「学習指導の深化・充実」

課題4 「個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善と充実」

I 学校名 石狩市立浜益小学校【石狩管内】

II 研究の概要

1. 研究主題

「新たな学びを創造する思考力・判断力・表現力の育成」
各教科等の目標を実現するための言語活動の充実を通して

2. 研究の柱 ～授業研究を通して、目指す子ども像～

〇思考力・判断力・表現力その他の能力を身につけ、主体的に学習に取り組む子ども

3. 研究仮説

- (仮説1) 各教科等の指導事項を授業のねらいとして考え、各教科等のねらいを達成するための言語活動や、各教科等の特性に即した言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力その他の能力が育まれ、新たな学びを創造することができるだろう。
- (仮説2) 知識や経験は全て言葉を通じて認識される。思考力・判断力・表現力を三位一体で育成する礎として、「原稿を書かずに話し合う『共感する』話し合い活動」を推進する指導過程を工夫することで、思考力・判断力・表現力その他の能力が育まれ、新たな学びを創造することができるだろう。
- (仮説3) 言語活動を通して、一人ひとりが自分で考えたことを、間違いを恐れずに意見を交わし、共に学び合える子どもの育成は、話し合いの技として、教科の特性とねらいに合わせたオープンクエスションの応用等の更なるファシリテーション力を身につけることで、思考力・判断力・表現力その他の能力がより生かされ、新たな学びを創造することができるだろう。

4. 研究内容（研究の手立て）

①各教科等のねらい、特性に即した言語活動の充実

具体的な取り組み

各教科等のねらいを達成する手段としての言語活動の充実
思考力・判断力・表現力その他の能力を育む言語活動の充実

②言語活動を通して思考力・判断力・表現力を伸ばす指導過程の確立（具体的な取り組み）

重点① 原稿を書かずに話し合う「共感する」話し合い活動の推進

「話してから書く」では目的は「書くこと」になってしまう。もともとの目的は話し合うこと。「(原稿を)書かないで話し合う」こと。つまり、原稿を書かずに話し合う「共感する」話し合い活動を推進する。

重点② 教科等の目標達成に合った話し合い形態の追究

原稿やメモを作らずに話し合う活動から考えると、算数科では、式や計算、図形等をもとに話し合うことになる。「共感する」話し合い活動を展開するためには、算数科をはじめとする各教科等の目標達成に合った話し合い形態を追究する必要がある。

③思考力・判断力・表現力を生かすファシリテーション力の育成（具体的な取り組み）

重点③ 教科の特性とねらいに合わせたオープンクエスションの応用

「共感する」話し合い活動から考えると、オープンクエスションはとても有効な形態だと考えられる。各教科のまとめでも、「共感」しながらのまとめができるので、教科の特性とねらいに合わせてオープンクエスションを応用させることで、主体的・対話的で深い学びが、より推進されると考える。

4. 研究計画

| 月 日 | 内 容 |
|-----------|------------------------------------|
| 4月上旬 | いっぺかだれや はまます自主公開研究会第1次案内発送 |
| 4月12日(水) | 研究のオリエンテーション 理論研修① 研究の具現化・授業研について |
| 4月19日(水) | 理論研修② 研究の具体的なすすめかた・授業研について・ICT活用 |
| 5月17日(水) | 学年経営案・特別支援・個別指導計画交流会 指導案検討① |
| 6月7日(水) | 授業研①(提案授業) 学校教育指導 指導案形式の最終提案 |
| 6月中～7月上旬 | 指導案検討①②③ |
| 7月19日(水) | 第2回 いっぺかだれや はまます自主公開研究発表会 |
| 夏休み中 | 小中連携・義務教育学校設立に向けた研修 |
| 8月23日(水) | 第2回 いっぺかだれや はまます自主公開研究発表会のまとめ |
| 9月20日(水) | 実技研修ICT活用研修① |
| 11月15日(金) | 実技研修ICT活用研修② |
| 11月22日(水) | 理論研修⑤ ファシリテーションワークショップ |
| 12月以降 | 道徳研修 道徳の授業づくりについて道徳授業交流・評価交流会 ～随時～ |
| 12月13日(水) | 最終授業公開についての提案 |
| 冬休み中 | 小中連携・義務教育学校設立に向けた小中合同会議 |
| 1月17日(水) | 理論研修⑥ 最終授業公開についての提案 |
| 1月～2月 | 最終授業公開・事後研随時 |
| 2月7日(水) | 理論研修⑦ 次年度の研究の具体的なすすめかたについて |
| 2月14日(水) | 学年経営案・個別指導計画交流会(総括) |

5. 研究の成果と課題(第2回 いっぺかだれや はまます自主公開研究会より)

◇重点①原稿を書かずに話し合う「共感する」話し合い活動の推進

○自分たちで評価して丸をつける活動場面で、「どうして?」「そういうことか」と尋ね合っていた姿が、共感する話し合い活動として素晴らしかった。【1・2年 国語科】



○子どもたちが考えたことを子どもたちの指示役が進めて、「ここぞ」というところで教師が拾い、「そうだね」と言うことで、「これでよかったんだ。やった」という思いを共感していた。【3・4年 算数科】



○教師を介した話し合いで「〇〇はこう言っていると」とか、意見の交流、すり合わせ、自分との違いといったことに踏み込むことが、他人と自分との自己理解、他者理解の入り口となっていた【**特支 自立活動**】



■道徳では「中心発問」と「問い返し」が重要。「どうしてそう思うの?」「もしも〇〇だったらどう?」といった問い返しをサイドワーカーができるようになると「共感」の質が更に上がる。【**5・6年 道徳科**】



◇重点②教科等の目標達成に合った話し合い形追究

○動画を取捨選択して、キーワードをメモし、メモをもとに話し合いをして、話し合いをもとにまとめを書くという学びは、社会科の目標にある「事象・課題・関わり方を選択・判断し、表現する力の育成」にダイレクトにつながっている。【**5・6年社会科**】



■目標達成のための話し合いを追究するのであれば、目標はより具体的・系統的であり、明確なものを設定していく必要がある【**1・2年国語科**】



■本時の中に計3回の対話があったが、スリム化できるところと、ダイナミック化できるところとで、軽重をつけると良い。本時の目標に直結する対話をダイナミックに。【**3・4年算数科**】



◇重点③教科の特性とねらいに合わせたオープンクエスチョンの応用

○エピソードを子どもたちに想起させたことによって、子どもたちの思考を、体験や経験から深め、深化させることができていた。【5・6年道徳科】



■こうした話し合いを中核に据えた学びを、中学校にどのようにつなげていくか。浜益学園開校に向けて、教育課程をどのように組んでいくかが問われる【5・6年社会科】



■コミュニケーションの授業を自立活動でやるとしたら、交流および共同学習、通常の学級で何ができたなら、あの子どもたちがもっと理解できるのか？もっと話し合いができるのか？というところを考えて、指導の工夫をしていく必要がある。【特支 自立活動】



6. 今後に向けて

- 令和8年度4月義務教育学校開校へ向けて、令和6年度4月より現中学校校舎改築工事がはじまり、中学生が小学校校舎で一緒に学ぶこととなる。この2年間は、より小中連携を意識しつつ教育活動を推進し、義務教育学校開校に向けての課題を整理していきたい。
- 現在、小中とともに地域の教育資源（人材や自然）を活用した体験活動を数多く取り入れ、ふるさと教育を推進している。今後、義務教育学校9年間を見通した体験（総合）学習の計画立案や持続可能な活動となるようCSと連携を図りながら進めていきたい。